

# 令和元年度病害虫発生予察特殊報第1号

令和元年8月28日

千葉県農林総合研究センター長

## ツマジロクサヨトウの発生について

1 害虫名：ツマジロクサヨトウ

2 学名：*Spodoptera frugiperda*

3 作物名：飼料用トウモロコシ

4 発生経過

2019年8月26日に、香取市の飼料用トウモロコシほ場において、チョウ目幼虫による食害を確認するとともに、本県では未発生のツマジロクサヨトウが疑われる幼虫を発見した。

そこで、農林水産省横浜植物防疫所に当該幼虫の同定を依頼した結果、8月27日、ツマジロクサヨトウであることが確認された。

日本国内では、2019年7月に鹿児島県で初めて確認された後、九州全県、沖縄県、岡山県、高知県及び茨城県で発生が確認されている。

5 形態及び生態等の特徴

(1) 分布

北米～南米、アフリカ（サハラ以南）、アジア（インド、中国、タイ、ミャンマー、台湾等）

(2) 寄主植物

アブラナ科（カブ等）、イネ科（トウモロコシ、イネ、サトウキビ等）、ウリ科（キュウリ等）、キク科（キク等）、ナス科（ナス、トマト等）、ナデシコ科（カーネーション）、ヒルガオ科（サツマイモ等）、マメ科（ダイズ等）などの広範囲な作物。

(3) 形態及び生態

ア 成虫は開張約37mmで、雌雄で外観が大きく異なり、オスのみが前翅中央部に白斑を持つ（写真1）。終齢幼虫は体長約40mmで、頭部の逆Y字及び尾部の斑点が特徴である（写真2）。卵は寄主植物に塊状で産み付けられ、メスの体毛で覆われる。

イ 本種は暖地に適応した種（南北アメリカ大陸の熱帯～亜熱帯原産）であり、熱帯では年4～6世代発生する。南北アメリカでは毎年夏季に成虫が移動・分散するが、暖地を除く地域では越冬することはできないとされている。

(4) 被害

本虫は、幼虫が新葉の葉鞘部や若い子実を食害する。若齢幼虫は葉を裏側から集団で加害し、成長すると加害しながら分散する。摂食量が多く、食害部には多量の糞が散在する（写真3、4）。

6 防除対策

本県では、当面の間、植物防疫法第29条第1項に基づく措置を行うこととし、発生ほ場においては、国との協議により選定した農薬（表1）を使用しての早期防除や、早期に刈取りし、サイレージ（注）にする。

なお、飼料用トウモロコシで採るべき対策は以下のとおりである。

- (1) 多発すると被害が拡大するおそれがあることから、ほ場を良く見回り、幼虫の早期発見に努める。
- (2) 発生ほ場においては、別に指定される薬剤の散布を行うか、薬剤防除が困難な場合は、早期に刈取りし、サイレージ（注）にする。
- (3) 農薬の使用に当たっては、散布は無風又は風が弱いときに行うなど、近隣に影響が少ない天候や時間帯を選び、風向き、防除器具のノズルの向き等にも十分注意するとともに、隣接農作物の栽培者に対して、散布予定農薬の種類や散布時期を事前に連絡するなど、農薬の飛散に留意する。
- (4) 幼虫の分散を防ぐため、収穫後は直ちに残さを耕耘する。

（注）サイレージ：牧草や飼料用トウモロコシ等を発酵させたエサ。

※農林水産省によると、本虫は、これまで国内で発生しているヨトウムシ類と同様、的確な防除の実施により被害の軽減が可能であるとされている。



写真1 雄成虫（標本）



写真2 終齢幼虫



写真3 トウモロコシでの被害



写真4 食害していた幼虫

※写真1、4は千葉県農林総合研究センター原図、写真2、3は農林水産省植物防疫所原図

表1 飼料用とうもろこし

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤(14459)	散布	発生初期 但し収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	—
BT水和剤(19885, 20653, 21944)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	—
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
アセタミプリド水溶剤	散布	収穫90日前まで	100～300L/10a	6000倍	3回以内
MEP乳剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内

表2 未成熟とうもろこし

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤(19616, 19618, 19899, 21694, 21695, 23884)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	—
BT水和剤(19885, 20653, 21944)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	—
BT水和剤(14459)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	60～150L/10a	1000倍	—
MEP乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
NAC粒剤	散布	雄穂抽出期～雌穂抽出期 但し収穫21日前まで		4～6kg/10a	2回以内
PAP乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
エトフェンブロックス乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
エトフェンブロックス粉剤	散布	収穫7日前まで		4kg/10a	4回以内
エマメクチン安息香酸塩乳剤	散布	収穫3日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	2回以内
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	700倍	2回以内
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
カルタップ粒剤	株の上から均一に散粒する	収穫7日前まで		6kg/10a	2回以内
クロマフェンジド水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
クロラントラニプロール水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
クロルフェナピル水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内
シベルメトリン水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	3000倍	3回以内
シベルメトリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内
シベルメトリン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	3回以内
ピリダリル水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
フィプロニル水和剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内
フェンバレート・MEP水和剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	1000～2000倍	4回以内
フルフェノクスロン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	2000～4000倍	2回以内
フルフェノクスロン乳剤	散布	収穫7日前まで	100～300L/10a	4000倍	2回以内
フルベンジアミド水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	2000～4000倍	2回以内
ベルメトリン乳剤	散布	収穫14日前まで	100～300L/10a	2000倍	4回以内
メタフルミゾン水和剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000～2000倍	3回以内
レピメクチン乳剤	散布	収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内

表3 ソルガム(飼料用)

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
アセタミプリド水溶剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	6000倍	3回以内
アセフェート水和剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内

※上記薬剤はツマジロクサヨトウに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用する農薬として、使用が可能です。

※上記使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数使用量、使用回数を守ること、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

※上記の作物以外で使用可能な農薬については、農林水産省HPを参照。

[http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k\\_kokunai/attach/pdf/tumajiro-21.pdf](http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/attach/pdf/tumajiro-21.pdf)

(注) BT水和剤に記載している( )内数字は登録番号。

問い合わせ先  
**千葉県農林総合研究センター病害虫防除課**  
 〒266-0006 千葉市緑区大膳野町 804 TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107  
 E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp